鹿児島県	鹿児島市	NPO法人SCC

予算額	9,621,584　円

トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	6　団体			
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他
	2　団体	0　団体	2　団体	2　団体

トップアスリート総数	4　名			
トップアスリートの内訳（大会出場別）	オリンピック	国際大会	全国大会	その他
	名	1　名	3　名	名

アシスタントコーチ総数	5　名

指導種目	陸上

◆効果を高めるための工夫や取組など

・　トップアスリートは指導の経験がほとんどなかった事から、指導経験が豊富なアシスタントコーチと組み合わせる事でスムーズな指導を目指した。最初はアシスタントコーチ主導で指導を進めることが多かったが、経験を積むことで、トップアスリートもどんどん競技で培った知識を指導に活かすことが出来、素晴らしい指導が出来るようになっている。

◆成果と課題

〔成果〕

・　総合型地域スポーツクラブの中には、専門の指導者がいなかったり、トレーニングプログラムが準備されていなかっったりする所もありましたが、トップアスリートを派遣することにより、専門性の高いトレーニングを実施することができました。

・　トップアスリートの見本を見たり、一緒に体を動かしたりすることで、子ども達の意欲向上に繋がりました。中学生・高校生にとっても、トップアスリートの指導を受けることにより、競技力が向上し、派遣先団体からも好評を頂いています。

〔課題〕

・　指導経験のないトップアスリートに対しては、指導経験豊富なアシスタントコーチと組み合わせることでフォローし、トップアスリート自身の指導力向上に繋げることができましたが、より良い指導を行うためにも指導能力向上のための講習会が必要だと思います。今回派遣されたトップアスリートは、競技引退後、社会人として日々生活していましたが、何らかの形でスポーツに関わりたいという思いを持っていたところ、この事業のメンバーとなることで、自身の培ってきた技術、経験を地域スポーツ団体に伝えることができ、充実した日々を送っています。

・　トップアスリートのセカンドキャリアという点で考えると、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団は、活動が土曜日曜日に集中しており、平日には別の仕事に従事しなくてはならないので、巡回指導だけではなく、総合型地域スポーツクラブの運営業務も経験できる仕組みが必要だと感じます。

地域課題解決に向けた取組

<table>
<tr><td rowspan="8">1</td><td>取組の名称</td><td colspan="5">「スポーツを通した障がい者の健康増進、社会的回復」</td></tr>
<tr><td>趣旨・目的</td><td colspan="5">ひきこもり、対人恐怖、心の病、仕事場・社会で悩みを持ち、精神的なストレスを持った方々に対して、スポーツを通して、身体を動かすこと、他者とふれあいにより、笑顔を引き出すことで、健康の増進、社交性の回復を目的とします。</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="5">他のNPO等と連携して、ひきこもり、対人恐怖、心の病、仕事場・社会で悩みを持ち精神的なストレスを持った方々がいる病院や施設等を、弊法人スタッフが、月に2回程度、巡回スポーツ指導しました。コーディネーショントレーニング（手遊びやタオル運動のようなもの）やストレッチポールなどを用いたリラックス運動を行うことで、参加した方々のレクレーション（笑顔）とリラックス（精神的安定）が図らました。</td></tr>
<tr><td>対象者</td><td>ひきこもり、対人恐怖、心の病、仕事場・社会で悩みを持ち精神的なストレスを持った方々</td><td>参加人数</td><td>225名</td><td>実施回数</td><td>15回</td></tr>
<tr><td rowspan="5">効果を高めるための工夫や取組など</td><td colspan="5">・　見慣れない指導者に自分の病気を知られることにも、抵抗を感じるので、回数を重ね、安心感が得られる様、新しいものだけでなく、日頃から行なっている体操（ラジオ体操）を取り入れたりした。</td></tr>
<tr><td colspan="5">・　声掛け等、指導者も成果を求めすぎないよう余裕のある対応を心がけた。</td></tr>
<tr><td colspan="5">・　音楽をかけ、導入部分にリラックス効果を高める深呼吸や、腹式呼吸をし内容をすすめる事で、始終ゆったりとした雰囲気になり、ペアストレッチ・レクレーションで他者とのふれあいやコミュニケーション能力が高まるよう務めた。</td></tr>
<tr><td colspan="5">・　実施にあたっては、この分野の専門団体（精神保健福祉ボランティアサークル ）に実施団体・場所の選定などの協力を頂いた。結果、互いの組織の違いを超えた連携となり、スポーツを通したコミュニティの形成促進につながった。</td></tr>
<tr><td colspan="5">・　本事業の対象となった方々は、日頃スポーツに親しむ機会も少なく、ごく簡単なストレッチやコーディネーショントレーニングでも、自分にできるだろうか、正しい動きを理解出来ているだろうかなど、個人によっては過度な精神的負担となる事もあります。人前でスポーツをする事への抵抗や、他者とのコミュニケーションに抵抗が見られる場面もあるため、日頃から行っているラジオ体操を取り入れたり、音楽をかけリラックス効果を高める深呼吸や複式呼吸を導入時に行うなどして、安心感を得られるよう工夫しました。</td></tr>
<tr><td colspan="5">・　コミュニケーション能力を高めるために、ペア・ストレッチレクリエーションも行いました。このことにより、回数を重ねるごとに、新しい友人が出来、お互いに助け合うようになり、笑顔が見られるようになりました。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">成果</td><td colspan="5">・　弊法人の専門スタッフが対象者に対して、適切な知識を持ち、各施設で個人にあったスポーツ指導をする事で、参加者や病院・施設関係者より大変好評を頂きました。</td></tr>
<tr><td colspan="5">・　今回の取組の実施にあたっては、この分野の専門団体（精神保健福祉ボランティアサークル）に実施団体・場所などの協力を頂きました。結果、互いの組織の違いを超えた連携となり、スポーツを通したコミュニティの形成促進につながりました。</td></tr>
<tr><td colspan="5">・　この事業を通じて、挨拶等の対人関係やコミュニケーション能力が増す、日常生活においても歩き方や健康への関心が高まり、前向きな行動等の変化が見られたという報告を施設スタッフから得ています。</td></tr>
<tr><td>課題</td><td colspan="5">・　今後も、「スポーツを通した障害者の健康増進、社会回復」を図り、加えて新たな人間関係としてのコミュニケーション能力向上促進に向けて、継続した活動が有効と感じられます。</td></tr>
</table>

2	取組の名称	スポーツを通した「世代間交流」				
	趣旨・目的	家族や地域社会の変化に伴い、子ども、若者、中高年、高齢者など異世代がかかわりあう機会が減少しています。スポーツを通して世代間の交流を深めることで、共に協力しあえる地域社会の実現に寄与することを目的とします。				
	内容	異世代が一緒になり、スポーツが出来る催し（リレー大会を2回、駅伝大会を1回）を開催しました。				
	対象者	小学生～高齢者	参加人数	220	実施回数	3回
	効果を高めるための工夫や取組など	・　年齢・性別を問わず、参加者を募る事で、普段交流することの少ない世代間の交流を目指した。				
		・　駅伝では距離が少し長くなるので、幼児の参加者は大人の参加者の皆さんに一緒に走ってもらった。				
	成果	・　同じチームの一員として協力しあうことで、普段交流することの少ない世代間で、子どもは大人の姿を見て、大人は子どもの姿を見て、互いに励まし合い、競技に取り組む事が自然に出来ていました。				
	課題	・　今後は、更に参加者を増やす事で、スポーツを通した世代間交流が更に広がるように活動したいと思います。				

3	取組の名称	離島の子どもの達のハンディキャップ解消				
	趣旨・目的	鹿児島県には多くの離島が存在しますが、そこに暮らす子ども達は、多くの可能性を持ちながらも、交通費などの経済的な事情により、トップスポーツを生で見る機会に恵まれません。現役トップ選手や指導者を離島に派遣し、模範をしめしたり、実技指導することで、離島の子ども達の才能を大きく開かせることを目的とします。				
	内容	離島（屋久島）にて小学生を対象として行いました。現役トップアスリートが、デモンストレーションをしたり、子供たちと競争をしたり、実技指導をしたりしました。実際の動きをみる事や、様々な指導者から指導を受ける機会の少ない離島の子ども達にとって、貴重な経験となり、夢と希望を抱き、才能を開花させる大きなきっかけとなりました。				
	対象者	離島に在住する小学生・中学生・高校生	参加人数	70	実施回数	2回
	効果を高めるための工夫や取組など	・　指導者が参加者に対してスポーツ指導をして終わりという内容ではなく、参加した子供たちが目一杯「楽しかった！」と言ってもらえるような内容を目指した。				
		・　冒頭にアスリートによるデモンストレーションを行い、また、子どもとアスリートを競争させ、子ども達に実際の動きを見せたり、速さを体験する機会を作った。トップアスリートと触れ合う機会のない子供たちにとって貴重な経験となった。				
		・　スポーツをこれから続けていくためのきっかけづくりとして、身近な存在である地元の高校生に、共に体を動かし、良いお手本を見せるボランティアスタッフとして参加してもらった。				
		・　実施にあたっては、屋久島の総合型地域スポーツクラブに、広報、参加受付、場所の選定などの協力を頂いた。結果、互いの組織の違いを超えた連携となり、スポーツを通したコミュニティの形成促進につながった。				
	成果	・　ただスポーツ指導をするだけでなく、子ども達がスポーツを続けていきたいと思えるよう工夫した。子ども達にアスリートの動きを見せたり、子ども達とアスリートが競争したりして速さを体感することで、よい刺激を与えることができました。				
		・　地元の高校生にボランティアスタッフとして参加してもらう事で、今後、中学、高校で陸上を始めたいという子どもがいたり、体育協会を中心として陸上教室を始めようという動きが生まれたりする等、継続的な活動となる事を感じました。				
		・　地元の高校生にボランティアスタッフとして参加してもらう事で、今後、中学、高校で陸上を始めたいという子どもがいたり、体育協会を中心として陸上教室を始めようという動きが生まれたりする等、継続的な活動となる事を感じました。				
		・　非常に良い取り組みだということで、この取り組みを実施した自治体が自主財源で予算を立てて、平成24年度にも実施をする予定。				
	課題	・　参加者が予想していたよりも下回った事から、離島の担当者との打合せを密にする必要性、また、インフルエンザの流行などによる参加者減もあり、開催時期の検討が課題となりました。				

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	35　校

コーディネーター総数	13　名

◆効果を高めるための工夫や取組など

- 事業開始当初、県・市教育委員会を通じてこの事業の活用を希望する小学校を募ったが、鹿児島市内の小学校からの希望が予想以上に少なかった。そこで、希望のあった学校をコーディネーターとプロジェクトリーダーが共に訪問し、事業についての説明を行うことで信用を得るよう努め、派遣時間増に繋げた。
- 一方、離島の小学校からの要望が多かったため、各島の教育委員会と連携し、1つの島の複数学校を数日かけて訪問することで効率化を図り、多くの学校で実施できることとなった。
- 事業開始後は、各コーディネーターのスケジュールや日報をインターネット上の掲示板機能に書込み、様々な種目についてアドバイスする際のコツや、子どもたちの様子を共有することで、コーディネーターのスキルが向上し、それぞれの学校の様子を理解しやすくなった。
- コーディネーターには、小学校の教員を目指している者、学生時代にスポーツで実績を残しながら就職先がなくフリーターをしている者、日本バスケットボール2部リーグチームの選手等、多様な人材を採用した。また、経験の浅いコーディネーターは合同授業の際に経験豊かなコーディネーターと共に授業に入ることで、子どもたちへの対応等を学べるようにした。

◆成果と課題

〔成果〕

- 本事業を実施して感じた大きな成果は、「子どもたちが体育の時間を楽しみにするようになった」という先生方の声でした。これまで休み時間は教室で過ごしていた子どもたちが、鉄棒や縄跳びを練習する姿が見られるようになり、体育に対して積極的に取り組むようになったという話を多くの学校の先生方から聞くことができました。
- コーディネーターが見本を見せることで、子ども達に「こんなことができるようになりたい」という明確な目標ができ、学習意欲が高まりました。
- マット運動や跳び箱等の補助に入ることで、難しい技にも怖がらずに思い切ってチャレンジする姿も見られるようになりました。
- 先生方からも、「一人だとどうしても目が届かないところにも目が届くようになり、事故防止に繋がる」、「一人一人をしっかり見て、どんどんほめてくれるので、子どもたちの集中力が持続する」、「細かいコツを教えてくれるので、子ども達にも理解しやすい」等、大変好評をいただいています。
- 鹿児島市内の小学校関連の様々な会合等でも、この事業を活用した学校の先生方から、非常に有意義な事業であると紹介され、大きな話題になっているそうです。
- 今年度は離島でも実施し、子どもたちからも先生方からも、大変喜んでいただけました。日頃、他者との交流が少ない子どもが多く、刺激になってよかったという感想や、先生方にとっても指導法を学ぶ良い機会になったという感想が多く、離島において実施した意義を感じました。
- コーディネーターには、学校の先生を目指している者、学生時代にスポーツで優秀な成績を残しながらその経験を生かす場がなく、フリーターをしている者、日本バスケットボール2部リーグチームの選手等、様々な人材を採用し、個人の持つスキルを活用する場となりました。
- コーディネーター自身にとっても、やりがいや喜びを感じながら収入を得ることに繋がり、よりよいサポートを実施しようと自ら指導方法を学ぶ様子も見られます。
- 今回のコーディネーターとしての実績が評価され、1人は学校の先生として、1人は他のスポーツクラブのインストラクターとして採用されました。優れた人材を地域に還元することにも繋がり、人材育成という本事業の成果を感じました。

〔課題〕

・　今後の課題として、残ったのは主に2点です。一つは、雨天時に急な予定の変更により、予定していたコーディネーターが授業に入れないという事態が、時折発生したことです。各学校も雨天時にはなるべく体育館の授業に切り替える等の対応を頂きましたが、どうしても都合がつなかいこともありました。
・　現場の先生方は時間のない中で様々な業務に追われており、先生とコーディネーターがきちんと打合せができないまま授業に入ることもありました。 そのため、コーディネーターを有効活用できないというケースや、スペシャリストが来たと勘違いされて高度な見本を求められるケースも見られました。 　今後は体育館と校庭のどちらも使用できる状況を派遣できるよう、学校との連携を強めていくことと、コーディネーターの具体的な活用例を担当となっている先生だけでなく、全ての先生に書面で配布することで、問題点を解決し、より良い体育活動支援を行っていこうと考えています。
・　より多くの学校で実施するために、島毎に日程を集中して派遣しましたが、学校との日程調整や移動手段の調査、宿泊先の手配等にかなりの時間を費やしてしまいました。できれば定期的に派遣して欲しい、もっといろいろな種目のコーディネーターを派遣して欲しい、という声もあるのですが、移動距離や滞在日数の問題もあり、離島派遣の難しさも感じました。 コーディネーターには、学校の先生を目指している者、学生時代にスポーツで優秀な成績を残しながらその経験を生かす場がなく、フリーターをしている者、日本バスケットボール2部リーグチームの選手等、様々な人材を採用し、個人の持つスキルを活用する場となりました。

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

・　スポーツを通じて新しい公共を担うコミュニティの形成を促進するという、本事業の目的に対して様々な取組を行ってきまいたが、それぞれにおいて非常に大きな成果と可能性を感じることができました。
・ トップアスリートやコーディネーター等の地域に埋もれていた人材を地域スポーツクラブや小学校で活用することで、個人の持つ豊富なスキルや経験を地域に還元することに繋がりました。
・　地域に存在する課題に対して、スポーツを通して解決を図るという試みは、スポーツが個人の楽しみに留まらず、社会貢献としての側面をもつことを広く伝えることになり、住民がスポーツの持つ力を実感し、主体的に地域のスポーツ環境の形成に関わるきっかけとなりました。
・　更に本事業を通じて、人材の発掘や育成を行うことが出来、スポーツを通した新たな雇用の創出にも繋がりました。
・　これらの事業は、地域スポーツクラブだけでなく、学校や病院、福祉施設等の地域団体の連携を促し、「新しい公共」という理念を自分たちにとって身近なものとして実現していく可能性を感じるものとなりました。

〔課題〕

・　こういった流れを継続、発展させていくためには、人材の確保や育成は必須であり、トップアスリートのセカンドキャリアという観点からも、安定した雇用環境の整備が必要だと実感しました。それにより、トップスポーツと地域スポーツの好循環が生まれ、新しい公共を担うコミュニティの形成が、より一層促進するものと考えます。